

1 学校教育目標
『建学の精神』 球磨の地に『人材の泉を掘る』 『教育目標』 三綱領のもと、知・徳・体の調和がとれ、自ら考え、学び、夢に向かって 真摯に行動する力を備えた地域や社会の発展に寄与する人材を育成する。 『教育スローガン』 人間力を高め 一隅を照らす人づくり 南陵魂で世界へ羽ばたけ

2 本年度の重点目標
<p>① 募集定員の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 魅力ある学校づくりを推進 ホームページやマスコミを活用した特色ある本校学習活動の周知 <p>② わかる授業の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> 南陵スタグダートによる「わかる授業」「もっと学びたくなる授業」の展開 ICT教育の充実 家庭学習も含めた学習習慣の定着 研究授業の充実や授業評価による授業改善 新教育課程の円滑な実施に向けた指導体制の充実 実学教育を通じた望ましい勤労観、職業観及び奉仕の精神を涵養 地域や関連機関との連携による特色ある教育活動の展開とキャリア教育の推進 <p>③ 基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常の身だしなみや挨拶、マナー指導の徹底 家庭との緊密な連携と生徒理解に基づく指導の促進 互いに声を掛け合えるクラス集団の育成 行事や部活動、ボランティア活動などを通じた自主的・主体的な精神の育成 地域連携や異年齢集団との活動を通じた自己有用感の醸成 <p>④ 教育相談体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期面談の実施及び自治体や関係機関との連携強化 学校いじめ防止基本方針に基づいたいじめを起こさない雰囲気醸成 いじめ通報アプリの活用や相談窓口の周知 自他を大切にすること人権尊重の精神の育成 7月の豪雨災害に対するアパースリ-反応への適切な対応 個別の教育支援計画や指導計画の活用推進 生徒支援会議や教科担当者会議における具体的な手立ての提示 <p>⑤ 安全・防災・環境教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 安全・防災教育の充実と危険を予知し回避する実践的行動力の育成 地域に密着した安全・防災教育の実践 GAPに準じた農場及び関係施設の管理推進 学校盤 ISO の活動の推進 <p>⑥ 地域貢献活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 交流学习会など専門教科を生かした社会貢献 地域イベント等への積極的な参加 学習活動やボランティア活動による7月豪雨被災支援 <p>⑦ 働き方改革の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 本校の指針である「働き方改革の推進について～できることからまず1つ～」の推進

3 自己評価総括表						
評価項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題	
大項目	小項目					
学校経	募集定員の確保	○全学科、定員80%以上の受検者確保と入学	○南陵応援隊によるPR活動を推進する ○ホームページやマスコミ等を活用して本校教育活動を周	B	○具体的な方策に示した活動のほかにPR動画の作成などに取組んだ。 ○HP1日平均閲覧数は約1000件であ	

営			者数150人以上	<p>知する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中学生保護者向け学校説明会を充実させる ○体験入学を充実させる 		<p>り、HPの更新も職員が意欲的に行っていた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中学生保護者向け説明会は今年度も対話型で行い満足度100%であった。 ○志願者数は前期124名、後期27名と昨年を上回る結果であった。
	業務の改善	実効性のある業務改善の実践	<ul style="list-style-type: none"> ○「働き方改革を意識した業務遂行ができています」と回答する職員85%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ○部活動指針に沿った部活動運営を徹底するとともに部活動数を見直す ○ノ残業デーでの定時退勤を徹底させる ○整理整頓日（クリーンデー）を設定する ○アンケートはFormsやマークシートを活用し効率化を図る 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○部活動指針に沿った部活動運営やノ残業デー、クリーンデー、アンケートの効率化などに取組むことができた。しかし、部活動数を見直すことはできていない。 ○職員アンケートでは「南稜高校は働き方改革が計画的に推進されている」48.9%、「私は働き方改革を意識し、業務の効率化と計画性を図っている」72.3%で目標を下回った。
	働き方改革の推進	働き方改革の実践	<ul style="list-style-type: none"> ○時間外勤務の縮減（超過勤務平均時間の前年度比10%削減） 	<ul style="list-style-type: none"> ○「働き方改革の推進について～できることからまず1つ～」に沿った改革を推進する ○主任主事等を中心に各部署における働き方改革を推進する 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○月平均時間外勤務時間は45時間程度で前年度とあまり変化はなかった。また、80時間を超える職員が平均5名で、昨年度より1名減少した。 ○「働き方改革の推進について～できることからまず1つ～」に沿った改革をほぼ推進することができた。
学力向上	わかる授業の実践	授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の90%以上が「授業が理解できた」とする「わかる授業」の推進 ○ICTを活用した授業の実践 	<ul style="list-style-type: none"> ○公開授業週間や授業研さんの機会を通して、南稜スタンダードの観点から各教科及び学科内で授業内容の振り返りを図る ○職員への南稜スタンダードの浸透及びその定着を図る機会を設ける 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○授業で「わかった」「できた」という達成感があると回答した生徒が約86%である。今後も生徒への学習に対する興味・関心を高めるような工夫及び「南稜スタンダード」の理念に基づいた授業実践を継続していく。
	学習習慣	欠席防止	<ul style="list-style-type: none"> ○8クラスで年間出席率98%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ○各部と出欠状況の共有を図る ○担任や学年団を中心に、家庭と連携した登校支援を充実させる 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○14クラス中7クラスが98%以上を達成し、このうち99%以上は2クラスであった。学校全体としては97.3%(12月末)。引き続き学習意欲の更なる喚起、及び不登校傾向生徒への継続的な対応を実施していく。
キャリア教育（進路指導）	進学・就職支援	進路目標の達成	<ul style="list-style-type: none"> ○進学・就職とも、志望先への合格・内定100% 	<ul style="list-style-type: none"> ○課外授業や模試等を活用した判断材料の収集と情報提供を促進させる ○希望調査と面談による適正な選択を支援する 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○多くの生徒は進路活動に積極的に取り組み、進路目標を達成させた。 ○進学・就職ともに内定率100%を達成したほか、国立大や公務員等、難関を突破した生徒も例年より多かった。
	定着指導	就業の継続	<ul style="list-style-type: none"> ○早期離職率25%以下 	<ul style="list-style-type: none"> ○3学年部と連携した事業所訪問の機会を利用し、定着指導を行う ○社会接続支援として3年生に早期離職防止のための講話を行う 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○令和3年3月卒業生の離職者は4名（5.1%）。前年度の離職状況より大幅に改善した。今後はキャリアサポーター、関係機関とよりいっそう連携を図りながら、内定後の社会接続支援の取組を充実させていきたい。
生徒指導	基本的生活習慣の確立	生徒が主体となった整容マナーの推進	<ul style="list-style-type: none"> ○整容規定の理解による態度の変化 ○整容マナーを守ろうとする意識・意欲の定着 	<ul style="list-style-type: none"> ○整容規定を生徒に配布し整容検査を行う。結果に基づき規定と現在の自分の姿を確かめさせる ○主体的で発展性のある生徒会活動の推進（整容アンケートの実施） ○各ホームルームにおけるセルフチェック等により、自分で整容を整える環境づくりを行う 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○整容規定を含む校則を生徒・保護者が理解し、落ち着いた高校生活を送ることができた。特別な指導件数が減少した。 ○整容アンケートを実施し、生徒から要望のあった女子スラックスおよびネクタイを導入した。 ○整容検査の再々検査を毎回実施しており、自発的に整容を整えることのできない生徒がいる。

					○生徒の提案に沿った校則の改定を行うまでに至らなかった。
	自尊感情や自己肯定感の涵養	自尊感情の向上	○「自分のことが大切な存在と思う」と答えられる生徒60%以上	○特別活動（部活動・生徒会・農業クラブ・家庭クラブ・ボランティア等）への参加を促す ○学校行事における生徒の主体的活動を推進する	B ○セルフエスティーム（自尊感情）評価から、昨年度より自己肯定感が高まったことがうかがえたが、結果は56%であった。 ○コロナ禍でありながら生徒の諸活動が様々な形で地域に紹介された。
人権教育の推進	人権教育・適応指導	人権教育の充実	○自分の人権を守り、他者の人権を守ろうとする意識・意欲・態度の定着	○対人関係の築き方や人との関わり方などをLHRや授業を通して伝えていく ○自己理解と他者理解をできることを目指し、自己肯定感を高める	B ○各学年で生徒の状況に応じた人権教育LHRを実施した。1年生では「快・不快」について学習し、さらに「ピア・サポート研修」を実施し、自己肯定感を高めることができた。
	特別支援教育体制の充実	個別の教育支援計画と指導計画の作成と引き継ぎ	○診断がある生徒の個別の教育支援計画、指導計画の評価記入率100%	○教育相談部による学期末ごとの評価の記入の呼びかけと確認を行う ○特別支援学校の巡回相談を活用し、目標の設定や評価のアドバイスをもらう	C ○今年度、特別支援教育職員研修が新型コロナの影響で延期されたこともあり、取りかかりが遅くなってしまい、作成が十分できなかった。
	命を大切にすることを育む指導	予防的 教育相談の実施	○担任による定期面談を年3回実施 ○ピア・サポート研修、GRIP研修を年3回実施	○学期に1回の担任による面談を推進し、気になる生徒へのサポートを行う ○生徒主体のピア・サポート研修とGRIP研修を実施し、教室内で支え合える体制を充実させる	B ○定期面談については、年間行事に設定してもらい面談を行うことができたが、他の行事等が重なり十分にできないことがあった。 ○ピア・サポート及びGRIP研修については、計画通り進めることができた。日頃から生徒に意識を持たせるために、今後は教室の掲示や「教育相談部だより」の発行等を行っていききたい。
いじめの防止等	いじめの未然防止と早期発見	相手の気持ちを考える心の育成	○3つの目（自分の目、相手の目、周囲からの目）で考える言動ができる	○自尊感情アンケートや心のアンケートを行い、生徒自身が自分の生活を振り返る時間を設ける ○アンケートを基に担任面談を行い、いじめの早期発見に努める ○SOSや自分の気持ちを伝える力を定着させる	B ○学校評価アンケート結果から、『いじめや暴力』への対応について、生徒の81.8%、保護者の75.8%から肯定的な評価を受けている。 ○関係機関との情報交換の時間（支援会議等）が少なく、対応が遅くなることもあった。今後は、早期発見、早期対応に尽力していきたい。
地域連携（コミュニティスクールなど）	学校運営協議会の開催	総合型コミュニティ・スクールの実践	○家庭、地域との連携・協力した課題解決や改善 ○地域に開かれ信頼される学校づくり	○学校運営方針の周知と共有を図る ○学校の課題や情報等の共有を図る ○学校の課題の解決に向けた協議に取り組む	B ○1回目の運営協議会は実施できたものの、2回目は新型コロナウイルス感染症の影響で書面協議となった。 ○学校運営方針の周知や学校の課題の解決に向けた意見交換ができた。 ○提出された意見・提案事項の中で具体的な対応につながったものが複数あった。
	地域連携	地域とともにある学校づくりの実践	○地域連携や地域活性化に関する活動への参加生徒80%以上	○地域イベントへの積極的参加と地域と連携した研究活動を推進する ○各学科で開放講座を実施する	B ○今年度もコロナ禍で地域活性化に関する活動に参加ができず、目標達成までには至らなかった。 ○今年度もコロナ禍で開放講座が実施できなかった。
特色ある学校	専門教育の充実	南稜カレッジ農場版の実践	○「専門教科に興味・関心がある」「学習内容を理解している」生徒	○基礎、基本を押さえた授業を実践する ○全教科でポートフォリオ評価を行う	A ○他校にない特色のある授業（専門教科）を受けることができて96.6%と高い評価であり、生徒の授業評価も90.9%と高い評価であった。 ○ポートフォリオ評価は、全科目での実施までには至らなかった。

作り			85%以上		
	地域の素材や人材の活用	地域資源の活用	○「郷土に誇りを持っている」生徒90%以上 ○農業系学科・コースでの地域資源活用率100%	○地域特産物や人材を活用した授業展開による郷土愛の醸成及び新たな地域資源活用方法を提案する	A ○郷土に誇りを持っている生徒90%以上で郷土愛は醸成されている。 ○農特産物等地域資源を活用した学習活動はほぼ100%であった。今後は、復興支援に繋がる地域と連携したプロジェクト学習の充実が求められる。

4 学校関係者評価

(第1回学校運営協議会でのご意見等)

- 南稜高校のスローガンと町(町長)が掲げるものがリンクしている。
- 町も高校とともに成長していく意識をもっていきたい。
- 農業に関する体験を通して、将来の展望や、地元農業に対する理解を深めていきたい。
- 南稜高校とは、昨年コラボできなかったのが残念だった。
- 『本年度の重点実践事項』⑥の地域貢献について小学校も頑張っていきたい。
- 南稜生は交通ルールも守り、挨拶もきちんとしている。
- 本校(小学校)もベルマーク委員があるので、高校での活動とタイアップができるといいと考えている。
- 農業関係者としての立場から地域がより繁栄できるように、地域のものを次の世代に繋げていけるように協力していきたい。
- 非行防止教室等で協力できたらと思っている。警察官募集中なので、ぜひ進路活動の中でおすすめいただければと思う。
- 災害後の生徒のボランティアなど大変ありがたかった。今後も学校活動を応援していければと考えている。
- 生徒が頑張れるのも先生方の見守りがあってこそだと思った。災害を経て、生徒たちの心の変化が気になっている。防災に関しても、町の防災危機管理課のハシモト管理官に適宜相談をしながら、町と連携のある動きをしていくことができたらいいと思っている。
- ピア・サポートなどの研修は親の世代にはなかったもので、生徒たちにとってはとても良い機会になると思っている。また、保護者向けにもそのような機会があればいいと思う。
- 人吉新聞で人吉高校がタブレットの1人1台導入の記事を見て気になっていた。今後、南稜高校も取り入れるということで、期待している。教育活動の説明にも出てきたレーズンは購入しているので、今後も楽しみにしている。
- 蔓延防止対策もあり、コロナによる影響は大きかったが、今後も積極的に交流をはかっていきたい。
- 鉄道が使えず、人吉市内へのアクセスは良くない状況であるが、あさぎり中学からの入学者が減っている。農業体験等を通して、楽しさや素晴らしさを感じてもらい、南稜高校への進学意欲に繋げたい。
- 人吉市からの生徒も減っており、交通の便の問題や、私立学校による部活動加入生徒の青田買いのような状況が考えられる。
- 学校説明会は高校生が中学校に赴いて、先輩という立場で説明をすると、中学生も興味がわき、良い効果があるのではないか。その際、1人の生徒代表ではなく、数名で説明を行うとより効果的ではないか。
- タブレットの導入もあり、情報伝達・発信の形を生徒の世代がより魅力を感じるものに変えていけるといいと思う。また在籍する生徒に南稜高校にきて良かったことを問うてみることで、生徒自身が学校をどのように感じているかを分析し、良くなかったことも踏まえて、魅力の発信ができると生徒募集につながるのでは。南稜高校だからできたことをアピールしていけると良いと思う。
- 何でもオールマイティにできる人材ではなく、得意分野で活躍できる人材を。あさぎり財団の構想がある。決まり次第、アナウンスしていきたい。
- 人吉球磨地域の有名な業者とのコラボ(白岳や人吉シャツ?)や、農家も含め、さまざまな業種とのマッチングができると良い。

(第2回学校運営協議会でのご意見等)

- いつ災害が発生するかわからない中で、昨年10月24日に本町の避難所開設・運営訓練が実施され、機構からも生徒に参加いただいたことは、今後、町と高校と連携したまちづくりにつながるとともに、地域との防災を通じたコミュニティが図られ、一番身近な高校としてのイメージが深まると感じました。今後も引き続き、防災に関する理解を深める中で、町と学校とが互いに支えあい、魅力的な郷土づくりとなることを期待しております。
- 「特色ある学校作り」にありますとおり、他校にない特色ある授業や郷土に誇りを持てる生徒数も多い結果を拝見し、地域資源を活用した取り組みを今後も継続いただき、常に新聞で紹介されている魅力ある学校として、認識が高まることを期待しております。

○南陵高校には、スポーツの運動部だけではなく、文化部など学校の特色を生かした牛部があり、新聞にも紹介ありましたとおり、全国レベルの「和牛甲子園」への出場を果たすなど、球磨人吉地域内でも話題性があり、球磨牛のブランド化にも一役買っていることにさらなるご活躍を期待しております。

○ここ2年間、コロナ感染症の影響もあり、活動が制限される中で、南陵高校が活躍している様子が、新聞等を通じて拝見できることは、あさぎり町民の方にとりましてとても喜んでおられると思います。先生方のあたたかいご指導の中で、南陵高校生がのびのびと活躍されることを期待しております。

○防災教育への取り組みや消防団活動への理解や協力などに尽力されており、一人一人の防災意識の向上へとつながっていければありがたいと思う。

○少子化の中、定員の確保はかなり苦戦されていると感じます。中学生とのつながり、PRなどが少しでも確保にプラスになっていればと思います。職員からも少し足りないと感じる設備の充実を改善されればと思います。

○少人数の部活もあると思いますが、大きな大会への参加は難しい中でも、他の部と同じように努力されている姿を皆に紹介していただきたいと思います。規定については何もありません。

○コロナにより学校行事、日常も大変な中部活動、学業、ボランティア等で活躍されている姿に感動を覚えます。普通の生活がありがたいとつくづく感じる毎日です。

○コロナでリモートでの参加も多かったと思いますが、PCの扱いも詳しくなり、いいなと思いました。今の子どもたちは小学生からタブレットでの授業もあり、プロジェクト発表もPCで作るのが普通でしょうから、大人になってからも活躍できている助かるでしょう。離職率が低かったのが、自分に合った職を見つけられたこととご指導のたまものと思います。制服が選べるなんて画期的！（田舎なのに）ポロシャツでもありなのでは？

○細かい集計ご苦労様です。生徒、先生、保護者の意見を見比べると、違っているものがあり面白いですね。例えば、生徒は南陵に入り、“優しさや思いやりが高まった”はプラス評価が親の方が低い。家庭では優しさが出ないのでしょいかね。教室で勉強ばかりしているより花や草木、動物、人と接することの多い子供たちは優しい子に育っていく可能性が大きいと思います。家庭学習ももっとやる気があればいいですね。

○南陵高校部活動規定についての御意見や御要望

コロナで部活動の規制があったり、活動できる時間も短かったりとなかなか上達やチームワークを創り上げるのも難しいでしょう。その中で、結果を出されている人たちもいるので努力を感じます。華道も素晴らしい！書道も素晴らしい！

○子供が通っていた頃は毎日見ていたHPですが、最近ではたまに思い出してどっさり見えています。生徒たちや先生方の頑張りに感心したり、ほっこりしたり、主人と話しなが見えています。子ヤギたち見に行きたいですね。いろいろなメディアに取り上げられ、南陵の活動を楽しんで見えています。日本一や食品開発販売、和牛甲子園、まだまだたくさんありますが、本当に素晴らしいと思います。今年の進学率はすごいですね。家庭学習もやる子はすごい。うちの子も大学に行かせていただいたのでわかりますが、先生方のご指導に頭が下がります。働き方改革も無視して遅くまで生徒のためにしてくださった結果だと思っています。

○今年度、定期券の不正使用や列車の運転中に大声を発するなど、列車業務においてあってはならない事象が起こっている。今後、一人一人の問題を問われることなく学校全体の問題として綱紀粛正を含め、しっかりした指導をお願いします。

○少子化の影響もあって、募集定員に満たない状況なので、何か特色のある学校運営が求められると思うので、現状厳しいところもあるが、いろんなことを試みて部外へ発信していくことが望まれると思います。

○日々お疲れ様です。応援しています。頑張ってください。

○免田小学校との関連行事、取り組みを数多くも受けていただき、本当にありがとうございました。今後も体験活動、学習支援、地域貢献活動のタイアップなどどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

○校長先生が示される学校教育目標の具現化がしっかりなされていると感じました。

○地域活性化につながるますますのご活躍を御祈念申し上げます。

○農業分野で九州、全国規模の大会でも成果を上げる南陵生の雄志を新聞で拝見します。指導される先生方の苦勞も察するところですが、地元の活躍が大変うれしく、こちらも沢山の勇気をもらいます。

スクールミッション・スクールポリシーに明記される「南陵スタンダード」が初めて目にされる方は詳細が分からないのではと思いました。

あさぎり町ふるさと返礼品に南陵高校のあさぎりフィナンシェや地元産材を生かしたモノづくりの製品を生かせないか？

農福連携についても明記されていますが、これから少子高齢化が深刻になる中、人吉球磨においても住民一人一人の暮らしと生きがい、地域を共につくっていく社会が求められます。南陵高校を舞台に、高齢者などが福祉の領域を超えて農作業や農作物で生徒と協働することで運動機能低下や認知症、閉じこもりの介護予防を図れないか。農福連携を通じ高齢者などが生き生きと活動できる社会参加や役割創出の場に行かないか、共に検討できることを期待したいです。

○令和2年度学校評価アンケートにおいて部活動について、回答（P12）に「29の部活動」とありましたが、資料4には26部活動でした。職員、生徒、保護者からも顧問のあり方等について意見がありました。職員の働き方改革の推進にもつながると思いますが、3年度で改善できた点はありますでしょうか。

○活動中の事故等に対する保険の加入は任意でしょうか。

○コロナ禍において様々な活動が制限されますが、オンラインの活用を含め、繋がりを切らない工夫を地域連携して取り組めることに期待します。

ボランティア部員各々の立案で行動に移しボランティア活動として実行する姿を間近で拝見し感銘を受けました。一人一人の力が社会を大きく変える力にもなるのだと、生徒の無限の可能性をこれからも心より応援したいです。協力できることがありましたらどうぞお声かけください。今後とも貴校のますますのご活躍を心より御祈念申し上げます。

5 総合評価

各重点目標の評価は次のとおりである。

① 募集定員の確保

新型コロナウイルス感染症の影響によりPR活動に制約がある中、従来のPR活動のほかにPR動画の作成などに取り組んだ。HP1日平均閲覧数は約1000件であった。また、中学生保護者向け学校説明会は今年度も対話型で行い満足度は100%であった。

② わかる授業の実践

新型コロナウイルス感染症対策を行った公開授業の開催や授業研さんの機会を通して、南稜スタンダードの浸透及びその定着を図る機会を設けた。「南稜スタンダードに従った分かる授業が展開されている」と回答した職員は89.1%であり、南稜スタンダードを意識した授業が展開されている。その結果、生徒からは「授業で『わかった』『できた』という達成感がある」85.8%、「授業中の指示や説明はわかりやすい」93.8%、「板書は丁寧に読みやすい」90.9%、「わかるまで教えてくれる」91.6%と昨年度を上回る高い評価を得た。しかし、保護者からも「南稜高校への進学は、子供の将来にとって意義がある」91.6%、「私の子どもは高校生活をとおして成長していると実感している」92.5%、「教科・科目は、生徒の興味・関心や進路希望をかなえるものになっている」84.4%と高い評価を得たが「南稜高校に入学して私の子どもの成績（学力）は向上した」は68.3%と低い結果となった。

今後も生徒への学習に対する興味・関心を高めるような工夫及び「南稜スタンダード」の理念に基づいた授業実践を継続していく。

③ 基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚

個々の生活の乱れに起因する要因を具体的に把握し、家庭との緊密な連携や生徒との信頼関係を築くとともに、学級経営においてもお互いに声を掛け合える集団に高めることで基本的な生活習慣の確立に取り組んだ。

アンケートの結果、本校は落ち着いたよい学校であると回答したのは保護者で88.1%、職員で82.6%と高かったのに対し、生徒では62.5%、と低い結果となった。本校の校則等に対する理解度に関する質問については、生徒が77.9%、保護者が86.3%、と概ね理解されているようである。また、本校の先生は問題行動や服装の乱れなどを見過ぎさず適切に指導してくれるの質問に対しても生徒が83.1%、保護者が78.1%、職員87.2%と高い評価となった。しかし、保護者アンケートで、子どもに関する悩みや心配事を学校・先生と共有できているの質問については65.3%と低い傾向が見られた。

本校生は自尊感情や自己肯定感が低い傾向にあり、学校行事や部活動、南稜スタンダードによる授業展開などをとおして、生徒一人ひとりが自分自身に自信をもち、新たなことや困難なことにも挑戦しようとする意欲と能力の向上に努めた結果、「私は高校生活をとおして成長していると実感している」89.7%、「南稜高校に通うことは自分の将来にとって意義があると感じている」89.7%、「南稜高校での授業は私の夢や進路を叶えるものになっている」83.3%、「南稜高校の体育大会や文化祭などの学校行事は、楽しく充実している」86.3%と高い評価であったが「私は学校行事や部活動、ボランティア活動などに積極的に参加している」、73.2%と低い傾向が見られた。さらに保護者のアンケートでは、「私の子どもは高校生活をとおして成長していると実感している」92.5%、「南稜高校への進学は、子供の将来にとって意義がある」91.6%、「南稜高校での授業は私の子どもの夢や進路を叶えるものになっている」84.4%、「南稜高校の体育大会や文化祭などの学校行事は、楽しく充実している」82.5%、「私の子どもは部活動や学校行事、ボランティア活動などに積極的に参加している」80.9%と高評を得た。今後も引き続き、三部会活動を活発にできるよう取組んでいきたい。

④ 教育相談体制の充実

中途退学等の進路変更者数の減少を目指し、学力の定着、定期的な面談の実施、自治体や関係機関との連携に取り組んだほか、学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめを起こさない雰囲気づくりやいじめ通報77りの活用等に取り組み、いじめ件数0件を目指した。

アンケートにおいては、個性やニーズに合った指導や支援に関する質問で生徒が85.2%、職員が68.1%。悩みや相談に親身になって応じてくれる（いる）の質問で生徒が86.6%、職員が91.1%と高い結果となったが、保護者では74.8%、65.3%と低い傾向が見られた。新型コロナウイルス感染症の感染防止で家庭訪問も制限されるなどの影響もあったが、家庭との連携に課題が見られた。

また、診断がある生徒については、個別の教育支援計画、指導計画を全て作成することができたが、活用までできていない。面談については年間行事に面談週間を設定したことで定期的実施することができた。ピアサポート研修、GRIP研修において、昨年同様に生徒が主体となってLHRを進めることができた。

⑤ 安全・防災・環境教育の充実

今年度から次年度までの2年間、学校安全総合支援事業（防災）の指定を受け防災事業を展開している。今年度は、あさぎり町役場とも連携して、地震や火災を想定しての避難訓練を行った。あさぎり町と避難所に関する協定書及び覚書も交わしており、あさぎり町での避難所開設・運営訓練に参加した。次年度は地域も巻き込んだ活動を展開していきたい。

⑥ 地域貢献活動の推進

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で地域を巻き込んだ取組みはあまりできなかった。しかし、くま川鉄道部分開通式等にダンス部が参加や、食品科学科の開発商品の販売等を行った。また令和2年7月豪雨の復興支援においても、田んぼダムや植林など、ハード面での取り組みにも生徒たちが参加してきた。このように、地域の復旧復興に即戦力として活躍する生徒たちの姿から、建学の精神「球磨の地に人材の泉を掘る」が根付いていることを確信することができた。今後、さらに地域とともに活動できる場を構築していきたい。

⑦ 働き方改革の推進

「働き方改革の推進計画～できることからまず1つ～」で挙げた部活動指針に沿った部活動運営や/-残業デー・クレーターの開催、Forms等を活用したアンケートの効率化などに取組むことができたが、部活動数を見直すことはできていない。職員アンケートでは「南陵高校は働き方改革が計画的に推進されている」48.9%、「私は働き方改革を意識し、業務の効率化と計画性を図っている」72.3%で目標を下回った。月平均時間外勤務時間は45時間程度で前年度とあまり変わらない。

次年度は、これまでの取組の成果と課題を踏まえ、本校の実態に応じた業務改善及び教職員の意識改革を進めていく。

なお、自己評価総括表でC・D評価の項目に関しては、次年度改善に向けて取り組んでいく。

6 次年度への課題・改善方策

① 募集定員の確保について

魅力ある学校づくりを推進するとともに、ホームページやマスコミ等を活用し、本校の特色ある学習活動を周知し、定員確保に努めていく。

② わかる授業の実践について

南陵スタガードの浸透及びその定着を図る。また、ICTを活用した授業の実践を増やしていく。

③ 基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚について

生徒会主体で整容規定の見直しによる生徒全体の規範意識の高揚をさらに図っていく。また、日常のきめ細かな指導と対話、そして家庭との連携を通して基本的な生活習慣を確立させ、欠席・遅刻や問題行動を防止する。

④ 教育相談体制の充実について

個別的教育支援計画や指導計画の活用をさらに推進し、生徒支援会議や教科担当者会議において具体的な手立てを提示していく。また、学期に面談週間を設けるとともに7月の豪雨災害に対するアンバーサリー反応への適切な対応と支援を行う。

⑤ 安全・防災・環境教育の充実について

学校安全総合支援事業（防災）の指定の完成年度として、地域と連携した事業を行っていく。

⑥ 地域貢献活動の推進について

⑤の防災関係を始め、ボランティアや地域のイベント等にも積極的に参加していく。

⑦ 働き方改革の推進について

本校の指針である「働き方改革の推進計画～できることからまず1つ～」を推進し、職場環境の改善に努める。